

2019 年度自由学園最高学部生活経営研究実習報告会について

神 明久

(自由学園最高学部 副学部長)

(原稿受付 2020 年 10 月 21 日；原稿受理 2021 年 1 月 13 日)

Report on Jiyu Gakuen College's Research Activities in Field Studies 2019

Akihisa JIN

Vice President of Jiyu Gakuen College

自由学園最高学部（大学部）の 2019 年度生活経営研究実習報告会は 2020 年 2 月 28 日に行われた。1 年生と 2 年生の全員が、所属する研究実習ごとに、活動内容や考察を口頭発表した。

KeyWords: 生活経営研究実習報告会, 自由学園, 自治生活, マネジメント

1. 生活経営研究実習について

生活経営研究実習は、自由学園最高学部（大学部）1・2 年生の必修科目である。学生は「農芸」「庭園・自然環境；草本・灌木」「庭園・自然環境；樹木」「食」「資源・エネルギー」「図書・記録資料」の 6 つのいずれかのグループに 2 年間所属し、自由学園キャンパスとその周辺を学びの現場として実習を中心に活動する。研究実習のねらいやカリキュラム全体の中での位置づけなどについては(小田・神 2019)を参照されたい。

2. 2019 年度の実習報告会について

2019 年度の実習報告会は、2020 年 2 月 28 日の 14 時から 15 時 30 分の 90 分間で行われた。前週に行われた 4 年課程 4 年卒業研究・2 年課程 2 年卒業勉強報告会と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響を配慮し、客席は間隔をあけ、消毒や換気等に細心の注意を払って実施した。

報告は、「農芸」「庭園・自然環境；草本・灌木」「庭園・自然環境；樹木」「食」「資源・エネルギー」「図書・記録資料」の活動内容に加えて、学生主導で生まれた活動についても言及があった。

まず「農芸」グループからは、活動概要及び活動内容について報告があった。撮影した写真や年間収穫量の表などを用いて具体的内容がよくわかる発表だった。また、栽培計画をより正確に行うための一つの手掛かりとして、つるなしインゲンの開花日から収穫日までの日数調査を行ったことも報告された。

「庭園・自然環境；草本・灌木」グループは、2019 年 2 月から 2020 年 1 月末までの校内における植物の種数調査についてまとめたものや、校内を流れる立野川の源流域である向山緑地について、全天写真撮影による光環境の調査報告があった。次に、「庭園・自然環境；樹木」から、今年度の活動実績として、校内の高木から低木まで様々な樹木に関する剪定作業に関することやタケノコや梅の実といった校内から収穫したものについての報告があった。また、樹木のフェノロジー調査や例年行っている学園内から切り出した竹を使った門松制作についても報告があった。

次に「食」グループからは、保存食づくりとその管理に関することや東久留米市特産の柳久保小麦を使用した食品の開発について報告があった。今回は、学園生産のピーツを使ったカップケーキを学生が考案し、販売も行った。また、最高学部の昼食で提供される魚料理に関して、その料理方法や器具に関する実験と改善案についても発表があった。

次に「資源・エネルギー」グループでは、通常の活動に加えて、2 年生が行った学部棟一階食堂の音響設備改善について

報告があった。アンケート調査より現在の問題点を洗い出し、その結果に基づいて、実際に音響設備の制作・設置を行った。なお設置された設備は、今回の報告会でも使用された。

最後に「図書・記録資料」グループからは、蔵書点検などの日常の活動に加え、1947年から2019年までの入学者に関して、出身地のデータを収集し、オープンソースソフトウェア・GISソフト QGIS を使用して、その変遷を可視化したものについての報告があった。記録資料を有効に活用するための手段を考えることもこのグループの活動の一つである。

3. 2019 年度の特徴

報告会では、6つのグループについての報告の後、今年度、学生主体で始まった新しい活動について、学生リーダーから報告があった。具体的には、今年度9月に行われた中間報告会後に、学生リーダーから「他の実習グループが実際どのような活動をしているのか、さらに詳しく知りたい」「グループごとに決められたルーティンワークやタスクが多いため、それ以外の活動も行いたい」という意見が実習指導者に対して提出された。

これがきっかけとなり、学生リーダーを中心とする学生主導による話し合いがもたれた。その後、学生同士の間で検討がなされ、解決策の第一歩として、いくつかのグループによる合同実習を行うことが決まった。以前から、「食」と「農芸」や、「樹木庭園」と「食」などの共同実習は行われていたが、今回は学生主導であることと、普段はあまり接点のないグループ同士の組み合わせであるところが特筆するべき点である。具体的には、資源・エネルギーグループが毎年行っているクリスマスイルミネーションの制作を農芸グループと樹木グループが日頃の活動で培ったスキルを活かし、共同で行うというものであった。約1ヶ月まえから準備を行い、12月13日に最終的に設置し、8日間ほど点灯させた。報告会の最後に、学生リーダーからは、合同実習で目指したものを下級生が引継ぎ、実習がより発展していくことを願っているというメッセージが述べられた。

参考文献

小田幸子・神明久（2019），“2017 年度自由学園最高学部 4 年課程卒業研究・2 年課程卒業勉強および生活経営研究実習報告会について”，生活大学研究 4，108-111.